



関係人口と協働する【コミュニティ活性】

2024 持続可能な集落創造プロジェクト

～関係人口を活かした集落づくり～

[丸山地域]

実施者

《教員》 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 教授 加藤 和彦

《学生》 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 加藤和彦研究室 23 名
スンデリヤ (院), 阿部 (4), 大橋 (4), 鈴木 (4), 竹内 (4), 棚田 (4), 内藤 (4), 永澤 (4), 中村 (4), 橋本 (4), 細見 (4), 本田 (4), 宮本 (4), 阿部 (3), 飯田 (3), 稲坂 (3), 金井 (3), 染谷 (3), 林 (3), 鶴見 (3), 飛氣 (3), 宝徳 (3), 渡邊 (3)

《南房総市内での連携・協働パートナー》

【行政】 南房総市役所 市民生活部 市民課 市民協働グループ 【企業等】 みねおかいきいき館
【市民団体等】 南房総市大井区会, 大井区自主防災組織かわせみ, 大井区子供会, 大井青空クラブ

1. 背景・目的

本プロジェクトは、持続可能な集落創造の目的のもと、地域が望む将来像に合わせた新たな地域運営の仕組みづくりと次世代のリーダー発掘・育成を行い、持続可能な集落を形成することを目指しており、千葉工業大学 鎌田研究室、加藤研究室、中川研究室、磯野研究室、藤木研究室がお互いの強みを活かして協働で取り組んできた。本報では、加藤研究室が中心となって取り組んできた「関係人口」が地域に及ぼす影響についての調査結果等を報告する。

2024 年度は、「関係人口」を対象に地域に対する愛着形成を調査・分析し、関係人口の増加促進策を探ることを目的とした。

2. 実施内容

本年度は、地域の祭礼や主要行事が復活し始め、コロナ前のような学生（関係人口）と区民との対面交流を深めることができ、老人会行事への参加、活動拠点である「学び舎じんべろ」やゆず畑の運用・整備を継続した。このような活動を通じて「関係人口」が地域に与える影響を把握するため、これまで、意識調査アンケート等を行ってきたが、本年度は、「関係人口」の地域に対する愛着形成の調査分析を実施した。「定住人口」および「関係人口」の地域に対する愛着形成要素を明らかにすることを目的として、全国の15歳～80歳までの男女に実施したアンケート調査の結果について報告する。

3. 成果と課題 ～地域貢献面・教育面～

本研究では、「定住人口」および「関係人口」の地域に対する愛着形成要素を明らかにすることを目的として、全国の15歳～80歳までの男女にアンケート調査を実施した。そして、その回答結果から、地域への愛着形成の心理過程を検討するために「共分散構造分析」を用いて分析を行った。

図1では、「定住人口の居住地」における愛着形成には先行研究[1]と同じように、「地域に対する肯定的な印象」と「地域への愛着」

のパス係数は0.81と有意で影響を与えていることを示す。また、「居住年数」から「地域への愛着」へのパス係数は0.12と「居住年数」が必ずしも愛着形成に影響を与えていないことが明らかになった。

図2では、「定住人口」においてその他に大きな影響を与えている要素は「集団に対する肯定的な印象」だということが明らかになり、パス係数は0.87であった。

そして、「関係人口」においても関係先地域の愛着には先行研究[1]と同じように「地域に対する肯定的な印象」が影響を与えており、その他に大きな影響を与えているのは、図3より「人々の忠実さと歴史文化に対する肯定的な印象」であることが明らかになった。

これらの結果から、「定住人口」において、地域への愛着を高めるためには、「集団に対する肯定的な印象」を抱かせる必要がある。「集団に対する肯定的な印象」を形成する要素には「行政の評価」、 「人々の忠実さ」、 「交流の多さ」である。そのため、過疎化している地域では、行政や人々が交流できる機会を今よりも多く設けることで転出増加を抑えることができる可能性があると考えられる。

また、「関係人口」においては、「人々の忠実さと歴史・文化に対する肯定的な印象」が地域への愛着形成に大きな影響を与えていることから、その地域の人々の忠実さや、歴史を体感できるお祭りやイベントを開催することが関係人口増加の機会を生み出すことができると考える。

そこで、本研究では、「定住人口」および「関係人口」の増加を促進させるフレームワークである「CISSPSモデル」(図4)を提案した。このフレームワークは、①Cognition(認知)、②Interest(関心)、③Search(検索)、④See(見る)、⑤Participate(参加)、⑥Share(共有)の6つで構成されている。このフレームワークを活用することで、「定住人口」や「関係人口」の効果的な増加促進策を策定できることが期待される。

活用案として次の3つのポイントをあげる。

【ポイント1】 「④ See(見る)」→「⑤ Participate(参加)」タイミングで、お祭りやイベントを見学の状態から実際に参加しても

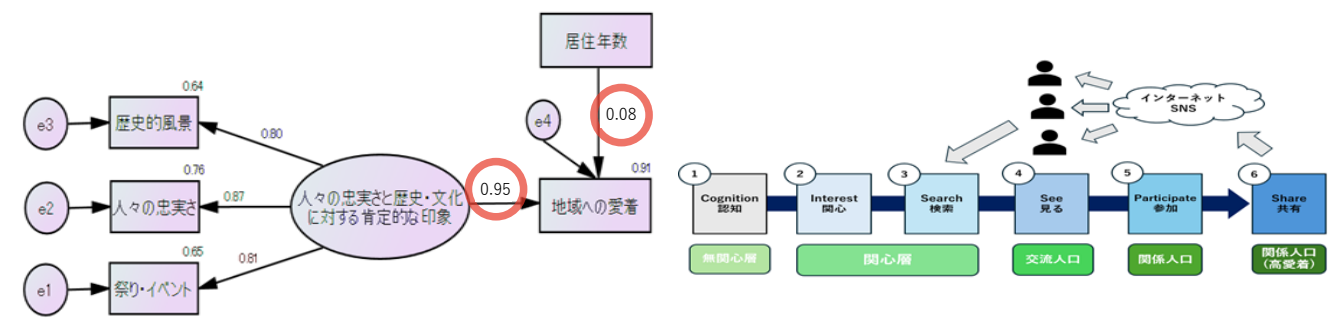
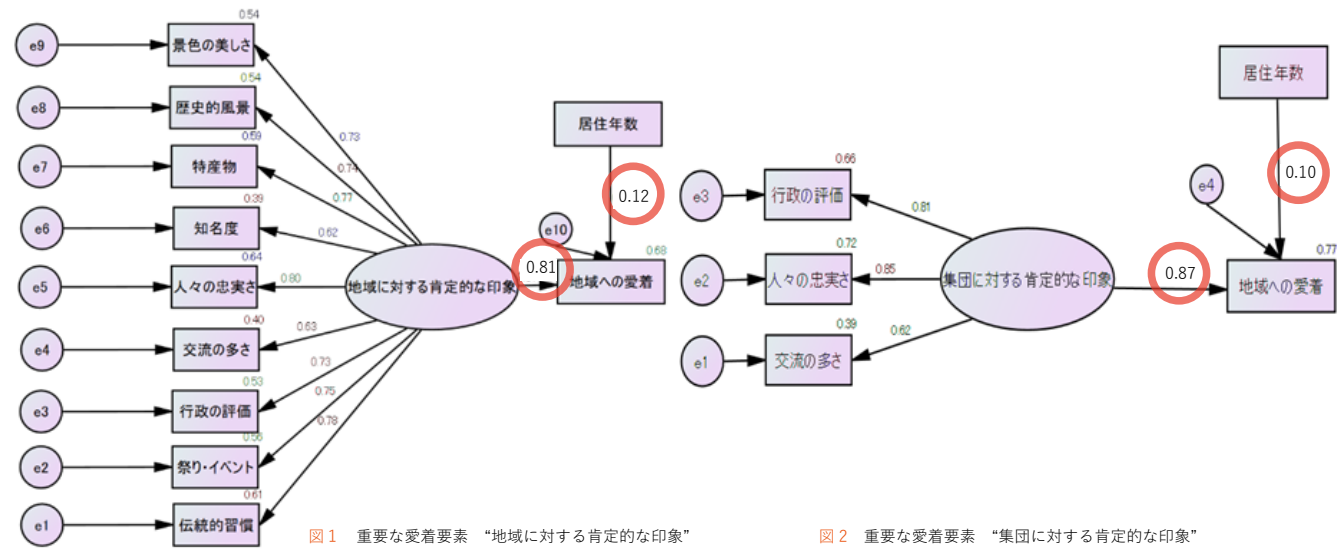


図3 重要な愛着要素 “人々の忠実さと歴史・文化に対する肯定的な印象”

図4 「CISSPSモデル」の概念図

域学協働の工夫！

- ★地域内のコミュニティの枠にとらわれないサポーター人材を発掘・育てること
- ★地域内の次世代中核人材が（モチベーションアップや訓練としての）チャレンジできる場を創出すること
- ★マンパワー・活力としての学生が存在すること
- ★中立・公益性のあるドライバー（学生・教員等）により地域住民の意見を抽出すること
- ★遊び心、余裕を持つこと

らい、「交流人口」から「関係人口」になってもらう。

【ポイント2】 「⑤ Participate(参加)」→「⑥ Share(共有)」のタイミングでその地域の祭り・イベントに複数回参加してもらい、愛着度の高い関係人口を創出すると共に、インターネットを介した共有をすることでその地域を多くの人に認知してもらう。

【ポイント3】 愛着度の高い関係人口(⑥)を定住人口予備軍にする。愛着度の高い関係人口に対し自治体などと交流させ、特に「行政」の良さを感じられるような取り組みを行う。

4. 総括

これまで複数年度にわたり本研究室が取り組んできた、『関係人口』による地域活性化についての様々な研究は、持続可能な集落創造の実現を目的としたものである。最終的な達成目標として掲げた、「持続可能な集落創造モデル」の構築は、過疎地域の定住人口流出抑止や関係人口増加および移住促進につながる「CISSPSモデル」の提案により、一定の成果を収めたと考えている。「関係人口」が、地域活性化や地域課題解決のカギになると考えており、南房総市全体への波及を見据えて今後も継続して調査・研究を実施していきたい。

*参考文献

[1] 引地博之・青木俊明：地域に対する愛着形成の心理過程の検討：景観・デザイン研究講演集 No1, pp.233-235, December 2005

*表彰・マスコミ掲載など

国際学術誌掲載（予定）Nyamaa Sunderiya, Keisuke Araki, Kazuhiko Kato : Data Analysis on the Formation of Attachment to Its Related Area in the Related Population, Journal of Computer and Information Science and Engineering, Vol.18, Chapter 13, 2025, ISBN 978-3-031-82605-4